

会

議

午前10時 0分開議

○議長（竹内清二君） おはようございます。

出席議員が定足数に達しておりますので、会議は成立いたしました。

直ちに本日の会議を開きます。

◎認第1号～認第10号の上程・説明・質疑・委員会付託

○議長（竹内清二君） 日程により、認第1号 平成28年度下田市一般会計歳入歳出決算認定について、認第2号 平成28年度下田市稲梓財産区特別会計歳入歳出決算認定について、認第3号 平成28年度下田市下田駅前広場整備事業特別会計歳入歳出決算認定について、認第4号 平成28年度下田市公共用地取得特別会計歳入歳出決算認定について、認第5号 平成28年度下田市国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算認定について、認第6号 平成28年度下田市介護保険特別会計歳入歳出決算認定について、認第7号 平成28年度下田市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について、認第8号 平成28年度下田市集落排水事業特別会計歳入歳出決算認定について、認第9号 平成28年度下田市下水道事業特別会計歳入歳出決算認定について、認第10号 平成28年度下田市水道事業会計歳入歳出決算認定について、以上10件を一括課題といたします。

当局の説明を求めます。

会計管理者。

○会計管理者兼出納室長（河井長美君） それでは、認第1号 平成28年度下田市一般会計歳入歳出決算認定についてから認第9号 平成28年度下田市下水道事業特別会計歳入歳出決算認定についてまでの決算につきましてご説明申し上げます。

決算書のご用意をお願いいたします。

1ページをお開きください。

最初に、一般会計・特別会計歳入歳出決算総括表でございますが、一般会計と8特別会計を合計した決算額は、歳入決算額191億5,797万7,000円、歳出決算額179億1,223万9,477円で、前年度と比較いたしますと、歳入決算額は5億7,653万4,434円、2.9%の減、歳出決算額は6億3,248万440円、3.4%の減でございます。

なお、各会計相互間の繰入金、繰出金の重複額13億2,646万2,716円を控除しました純計額

は、歳入決算額189億6,477万8,244円、歳出決算額176億4,067万8,886円でございます。

次に、認第1号 平成28年度下田市一般会計歳入歳出決算認定についてご説明申し上げます。

5ページ、6ページをお開きください。

歳入決算額は108億4,646万4,795円でございます。

11ページ、12ページをお開きください。

歳出決算額は……。

〔「もうちょいゆっくり言ってくれ」と呼ぶ者あり〕

○会計管理者兼出納室長（河井長美君） 失礼しました。

11ページ、12ページをお願いします。

歳出決算額は101億6,761万5,624円で、歳入歳出差引額は6億7,884万9,171円でございます。前年度と比較いたしますと、歳入総額は6億1,607万673円、5.4%の減、歳出総額は5億571万6,566円、4.7%の減となりました。予算現額に対する執行率は、歳入100.4%、歳出94.1%でございます。

内容につきましては、事項別明細書により説明させていただきます。

93ページをお願いします。

〔「13」と呼ぶ者あり〕

○会計管理者兼出納室長（河井長美君） 失礼しました、13ページですね。13ページをお開きください。失礼しました。

歳入からご説明申し上げます。

1款市税でございますが、予算現額28億3,490万1,000円に対しまして、調定額31億9,854万3,043円、収入済額29億2,956万273円、不納欠損額3,189万3,757円、収入未済額2億3,708万9,013円でございます。調定額を前年度と比較しますと9,144万3,314円、2.8%の減となりましたが、調定額に対する収入率は91.6%で、1.8ポイント改善しております。

税目別の状況についてご説明申し上げます。

1項市民税は、予算現額9億9,420万円に対しまして、調定額11億4,012万4,949円、収入済額10億4,336万981円、不納欠損額1,191万3,257円、収入未済額8,485万711円でございます。調定額を前年度と比較しますと2,918万9,483円、2.8%の減となりましたが、収入率は91.5%で、2.3ポイント改善しております。

市民税の内訳を申し上げますと、1目個人は、予算現額8億6,880万円に対しまして、調

定額 9 億8,870万7,149円、収入済額 8 億9,757万881円、不納欠損額1,096万657円、収入未済額8,017万5,611円でございます。調定額を前年度と比較しますと2,908万3,083円、2.9%の減となりましたが、収入率は90.8%で、2.5ポイント改善しております。

2 目法人は、予算現額 1 億2,540万円に対しまして、調定額 1 億5,141万7,800円、収入済額 1 億4,579万100円、不納欠損額95万2,600円、収入未済額467万5,100円でございます。調定額を前年度と比較しますと10万6,400円、0.1%の減となりました。収入率は96.1%で、0.9ポイントの増となっております。

2 項固定資産税は、予算額13億5,510万円に対しまして、調定額15億1,515万6,779円、収入済額13億6,851万5,904円、不納欠損額1,707万4,759円、収入未済額 1 億2,956万6,116円でございます。調定額を前年度と比較いたしますと5,677万6,255円、3.6%の減となりましたが、収入率は90.3%で、1.7ポイント改善しております。

内容を申し上げますと、1 目固定資産税は、予算現額13億4,970万円に対しまして、調定額15億968万3,379円、収入済額13億6,304万2,504円でございます。調定額を前年度と比較しますと5,671万5,255円、3.6%の減となりましたが、収入率は90.3%で、1.8ポイント改善しております。

2 目国有資産等所在市町村交付金は、予算現額540万円に対しまして、調定額、収入済額とも547万3,400円で、前年度と比較しますと 6 万1,000円、1.1%の減となりました。収入率は100%で、前年度と同様でございます。

3 項軽自動車税は、予算現額6,440万円に対しまして、調定額7,306万1,847円、収入済額 6,657万7,262円、不納欠損額76万9,900円、収入未済額571万4,685円でございます。調定額を前年度と比較しますと1,149万5,500円、18.7%の増となり、収入率は91.1%で、1.6ポイント改善しております。

4 項市たばこ税は、予算額 1 億8,100万円に対しまして、調定額、収入済額とも 2 億157万1,645円でございます。前年度と比較しますと540万5,217円、2.6%の減でございます。収入率は100%で、前年度と同様でございます。

15ページをお開きください。

5 項特別土地保有税は、地方税法の改正により、平成15年度以降、課税停止となっております。

6 項入湯税は、予算額7,130万円に対しまして、調定額7,935万4,730円、収入済額7,901万2,910円、不納欠損額はゼロ円、収入未済額34万1,820円でございます。調定額を前年度と比

較しますと428万4,750円、5.1%の減、収入率は99.6%で、前年度を0.2ポイント改善しております。

7項都市計画税は、予算現額1億6,890万円に対しまして、調定額1億8,927万3,093円、収入済額1億7,052万1,571円、不納欠損額213万5,841円、収入未済額は1,661万5,681円でございます。調定額を前年度と比較しますと727万309円、3.7%の減でございます。収入率は90.1%で、1.8ポイント改善しております。

2款地方譲与税は、予算現額6,234万9,000円に対しまして、調定額、収入済額とも6,234万8,000円で、前年度と比較しますと507万5,000円、7.5%の減でございます。収入率は100%で、前年度と同様でございます。

内容を申し上げますと、1項地方揮発油譲与税は、予算現額、調定額、収入済額とも1,821万1,000円で、前年度と比較いたしますと226万9,000円、11.1%の減でございます。

2項自動車重量譲与税は、予算現額、調定額、収入済額とも4,413万7,000円で、前年度と比較しますと280万6,000円、6.0%の減でございます。

3款利子割交付金は、予算現額、調定額、収入済額とも271万円で、前年度と比較しますと206万7,000円、43.3%の減でございます。

4款配当割交付金は、予算現額、調定額、収入済額とも808万7,000円で、前年度と比較しますと522万6,000円、39.3%の減でございます。

17ページをお願いします。

5款株式等譲渡所得割交付金は、予算現額、調定額、収入済額とも612万9,000円で、前年度と比較しますと792万7,000円、56.4%の減でございます。

6款地方消費税交付金は、予算現額、調定額、収入済額とも4億4,685万1,000円で、前年度と比較しますと7,203万3,000円、13.9%の減でございます。減少した主な要因ですが、平成27年国勢調査における人口減によるものでございます。

7款ゴルフ場利用税交付金は、予算現額1,000円に対しまして、調定額、収入済額ともゼロ円で、前年度と比較しますと72万3,800円、100%の減でございます。

8款自動車取得税交付金は、予算現額、調定額、収入済額とも1,695万1,000円で、前年度と比較しますと35万6,000円、2.1%の減でございます。

9款地方特例交付金は、予算現額、調定額、収入済額とも612万4,000円、前年度と比較しますと13万4,000円、2.1%の減でございます。

10款地方交付税は、予算現額、調定額、収入済額とも28億5,857万7,000円で、その内訳は、

普通交付税が24億9,430万5,000円で、前年度比6,928万円で、2.7%の減、特別交付税は3億6,427万2,000円で、前年度比1,654万1,000円、4.3%の減となっております。前年度と比較しますと8,582万1,000円、2.9%の減でございます。減少した主な要因ですが、平成27年国勢調査による人口減に伴う基準財政需要額の減少によるものでございます。

19ページをお開きください。

11款交通安全対策特別交付金は、予算現額、調定額、収入済額とも299万1,000円で、前年度と比較しますと8万6,000円、2.8%の減でございます。

12款分担金及び負担金は、予算現額1億2,850万2,000円に對しまして、調定額1億3,191万7,043円、収入済額1億2,707万6,763円、不納欠損額65万6,800円、収入未済額418万3,480円でございます。調定額を前年度と比較しますと385万1,330円、2.8%の減でございます。

13款使用料及び手数料は、予算現額1億2,863万7,000円に對しまして、調定額1億2,882万8,531円、収入済額1億2,353万4,641円、収入未済額529万3,890円でございます。調定額を前年度と比較しますと947万8,745円、6.9%の減でございます。収入未済額は土木使用料及び土木手数料であり、前年度と比べ67万5,180円、11.3%減少しております。

25ページをお開きください。

14款国庫支出金は、予算現額13億7,351万7,000円に對しまして、調定額13億3,481万180円、収入済額13億2,998万6,180円、収入未済額482万4,000円で、調定額を前年度と比較しますと1億1,263万1,604円、7.8%の減でございます。減少した主な要因ですが、地域住民生活等緊急支援のための交付金、避難所等太陽光発電設備導入推進事業費補助金の減少によるものでございます。収入未済額482万4,000円は、平成29年度への繰越分の社会保障・税番号制度整備事業費補助金及び社会資本整備総合交付金で、前年度と比べ3,607万8,000円、88.2%の減でございます。

31ページをお開きください。

15款県支出金は、予算現額5億9,693万4,000円に對しまして、調定額5億7,920万8,082円、収入済額5億6,848万3,082円、収入未済額1,072万5,000円で、調定額を前年度と比較しますと6,119万135円、11.8%の増でございます。増加した主な要因は、緊急地震・津波対策等交付金、下田地区漁港機能保全整備事業の増加によるものでございます。収入未済額は平成29年度への繰越分で、農林水産業費県補助金、それから土木費県補助金でございます。

35ページをお開きください。

16款財産収入は、予算現額3,017万4,000円に對しまして、調定額3,065万6,581円、収入済

額3,020万9,613円、収入未済額44万6,968円でございます。調定額を前年度と比較しますと781万4,192円、34.2%の増でございます。収入未済額は市有地貸付収入でございます。

37ページをお開きください。

17款寄附金は、予算現額2億36万6,000円に対しまして、調定額2億1,443万8,306円、収入額2億1,099万9,657円、収入未済額343万8,649円でございます。調定額を前年度と比較しますと1億1,888万8,196円で、124.4%の増となっております。増加した主な要因は、ふるさと応援基金を含む総務費寄附金を初めとしたふるさと納税にかかわるものでございます。

39ページをお願いします。

18款繰入金は、予算現額5億2,324万8,000円に対しまして、調定額、収入済額とも5億2,279万5,146円でございます。前年度と比較しますと7,415万3,834円、16.5%の増でございます。増加した主な要因ですが、財政調整基金繰入金、ふるさと応援基金繰入金の増加によるものでございます。

41ページをお開きください。

19款繰越金は、予算現額7億8,920万3,000円に対しまして、調定額、収入済額とも7億8,920万3,278円でございます。前年度と比較しますと2億540万2,226円、35.2%の増でございます。増加した主な要因ですが、実質収支の増でございます。

20款諸収入は、予算現額1億9,855万4,000円に対しまして、調定額2億3,676万5,034円、収入済額2億1,334万8,162円、収入未済額2,341万6,872円でございます。調定額を前年度と比較しますと4,397万5,986円、22.8%の増でございます。収入未済額は前年度と比べ67万7,600円、3.0%増加しております。主なものは、災害援護資金貸付金元利収入、保護費返還金でございます。

47ページをお開きください。

21款市債は、予算現額5億9,340万円に対しまして、調定額5億9,250万円、収入済額5億9,050万円で、収入未済額200万円でございます。調定額を前年度と比較しますと8億4,220万円、58.7%の減でございます。収入済額は前年度に比べ8億1,880万円、58.1%減少しております。主な要因は、給食センターの建設が終了し、教育債学校給食施設債の給食センター建設事業費が減少したことによるものでございます。収入未済額200万円は平成29年度への繰越分で、下田地区漁港機能保全整備事業でございます。

以上で、歳入についての説明を終わらせていただきます。

続きまして、歳出について説明をさせていただきます。

53ページをお開きください。

1 款議会費でございますが、支出済額は1億1,167万7,055円、執行率は97.7%、前年度に比べ852万478円、7.1%の減となっております。主な要因は、議員共済費の減によるものでございます。

55ページをお開きください。

2 款総務費でございますが、支出済額は19億81万5,420円、執行率は96.2%、前年度に比べ1億2,361万9,407円、7.0%の増となっております。主な要因は、ふるさと応援基金積立金、ふるさと応援寄附返礼品、津波避難施設（春日山遊歩道）整備工事の増でございます。

1 項総務管理費は、前年度に比べ1億8,238万7,178円、15.2%の増となっております。主な要因は、企画振興費の中の地域振興事業で、ふるさと応援寄附返礼品及びふるさと応援寄附システム使用料が増加したことと、財政調整基金積立金、ふるさと応援基金積立金の増でございます。

77ページをお開きください。

15目財政調整基金費は、5億7,000万円を積み立てしておりますが、4億3,753万8,000円を取り崩したため、基金としての平成28年度末現在高は10億6,908万4,312円でございます。

79ページをお開きください。

19目ふるさと応援基金費でございますが、1億2,657万5,000円の寄附をいただき、そのうち1億1,695万円を積み立てしておりますが、3,600万円を取り崩したため、基金としての平成28年度末現在高は1億2,528万212円でございます。

なお、ふるさと応援基金積立金は、前年度と比べ7,702万3,000円、192.9%の増でございます。

89ページをお開きください。

4 項 3 目下田市長選挙費は、支出済額1,042万9,696円で、6月12日に選挙が執行され、投票率は67.45%でございました。

91ページをお開きください。

4 目参議院議員選挙費は、支出済額1,210万8,527円で、7月10日に選挙が執行され、投票率は静岡県選出議員選挙、比例代表選出議員選挙ともに54.04%でございました。

97ページをお開きください。

7 項 1 目交通安全対策費のうち防犯対策事業では、LED照明導入調査業務委託781万9,200円を実施しました。

103ページをお開きください。

9項1目電算処理総務費のうち電算処理総務事業では、基幹系と情報系のシステム管理を行いました。また、平成27年度繰越分で、インターネット分離環境構築業務委託1,925万8,800円、指静脈認証システム導入業務委託691万2,000円を実施しました。

107ページをお開きください。

3款民生費でございますが、支出済額35億3,144万3,366円、執行率は95.1%、前年度に比べ3,259万8,150円、0.9%の増となっております。主な要因ですが、年金生活者等支援臨時福祉給付金（高齢者）、それから自立支援医療費の増でございます。

1項1目社会福祉総務費のうち災害時要援護者支援対策事業でございますが、災害対策基本法の一部改正により、高齢者、障害者等の防災施策において、特に配慮を要する方のうち災害発生時の避難等に支援を要する方の名簿の作成が義務づけられたため、その名簿の整備を行ったものでございます。

109ページをお願いします。

2目臨時福祉給付金給付事業費は、平成26年4月から消費税率が8%に引き上げられたことに伴い、所得の低い方々への負担の影響を鑑み、暫定的、臨時的な措置として給付金を支給しており、支給額は1,283万4,000円でございます。また、平成28年度は新たに、年金生活者等支援臨時福祉給付金（高齢者）給付事業9,399万円、年金生活者等支援臨時福祉給付金（障害・遺族）給付事業537万円を支給しました。

119ページをお開きください。

7目福祉基金費のほのぼの福祉基金積立金は、一般市民からの寄附金5件、12万1,236円とふるさと納税549件、1,029万円の合計1,041万1,236円を積み立て、750万円を取り崩したため、基金の平成28年度末現在高は3,186万1,650円でございます。

2項1目老人福祉総務費のうち老人福祉施設入所措置事業では、賀茂老人ホームほか3施設に31名の方を入所させております。なお、平成28年度末の待機者はありません。在宅老人援護事業では、ひとり暮らし老人等への給食サービスを、登録者228人に対し、利用者延べ人員433人に5,739食を実施しました。

121ページをお開きください。

3目総合福祉会館費では、今後見込まれる総合福祉会館利用者の増に対応し、高齢者が一層利用しやすい施設とすること、また高齢者生きがいプラザの代替機能を確保するため改修工事を予定しておりますが、そのための総合福祉会館改修工事実施設計業務委託を311万400

円で実施をしました。

127ページをお開きください。

3項2目児童手当費では、受給者数1,122世帯、受給延べ児童数2万3,628人に対し、児童手当2億5,828万5,000円を支給しました。

3目保育所費では公立保育園1園、4目民間保育所費では民間保育所2園、5目認定こども園費では公立認定こども園1園の合計4施設で保育を実施しました。

135ページをお開きください。

6目放課後児童対策費でございますが、下田小学校と稲生沢小学校に放課後児童クラブを開設しております。平成28年度におきましては、下田小学校放課後児童クラブにて、夏休み等長期休み期間中の児童の受け入れ環境改善のため、多目的ルームエアコン設置工事109万7,280円及び放課後児童クラブ室整備工事924万1,560円を実施しました。

137ページをお開きください。

9目子育て支援費のうち子ども・子育て支援事業では、平成27年度からの繰越分として、子ども・子育て支援システム改修業務委託194万4,000円を実施しました。

139ページをお開きください。

10目子育て支援基金費は、ふるさと納税1,020件、1,877万5,000円と460万円の合計2,337万5,000円を積み立て、400万円を取り崩したため、基金の28年度末現在高は6,404万3,192円でございます。

4項1目生活保護総務費でございますが、生活保護費支給事業の生活保護扶助費は6億4,255万1,727円で、うち医療扶助は3億5,048万8,919円、扶助金額に占める割合は54.5%となっております。平成28年度末の被保護者は318世帯、373人で、前年度より3世帯、13人の減となっております。

147ページをお開きください。

4款衛生費でございますが、支出済額は9億960万1,836円、執行率は95.0%、前年度に比べ2,779万3,450円、3.2%の増でございます。主な要因は、四種混合B型肝炎ワクチン予防接種委託、焼却場修繕費、下田公園入口公衆便所改修工事の増でございます。

1項2目予防費では、一般社団法人賀茂医師会の協力を得て、各種予防接種を実施しました。平成26年10月から高齢者用肺炎球菌予防接種が定期予防接種化され、平成28年度は対象者1,983人に対し、実施人数が566人、接種率は28.5%となりました。

149ページをお願いします。

3目母子保健費では、妊婦健康診査を14回実施し、受診実人員は129人、延べ件数は1,426人でございます。未熟児養育医療は、対象者2名に対し49万734円公費負担しております。また、不妊治療助成事業として、17組に対し151万1,930円助成しました。

151ページをお開きください。

5目病院費では、一部事務組合下田メディカルセンター負担金として1億1,572万9,000円、出資金として3,000万8,000円を支出しております。

2項1目保健対策費のうち健康増進事業では、早期発見・早期治療を目的とし各種がん検診を実施し、延べ7,354人が受診しました。また、要精検及び要精検者未受診者には、電話や通知にて受診勧奨を実施しました。

153ページをお開きください。

3項清掃費でございますが、平成28年度のごみ収集・持ち込み実績は1万132トンで、前年度より460トン減少し、1トン当たりのごみ処理経費は4万1,588円となり、前年度より3,351円増加しております。

なお、可燃ごみ収集業務は、民間委託計画に基づき民間委託で実施し、年間市収集可燃物4,513トンのうち4,481トンが民間委託での収集でございます。

161ページをお開きください。

3項5目環境対策費のうち環境対策事務では、地球温暖化対策の一環として、16件の住宅用太陽光発電システム補助を実施し、186万3,000円の補助金を交付しました。

163ページをお開きください。

5款農林水産業費でございますが、支出済額は2億518万1,363円で、執行率は98.3%、前年度に比べ3,256万7,071円、18.9%の増となっております。主な要因は、下田地区（吉佐美漁港）漁港機能保全整備工事の増でございます。

167ページをお開きください。

1項3目農業振興費のうち農業振興事業では、伊豆太陽農業協同組合、下田市農業振興会、地場野菜研究会等の活動を支援し、賀茂農林事務所と協議しながら農業振興施策の推進を図りました。

173ページをお願いします。

2項1目林業振興費のうち有害鳥獣対策事業では、猿、鹿、イノシシの駆除に対し、報償費として830頭分、457万5,000円を支給しました。また、電気柵、防護柵等の設置者に対し、51件、321万2,000円の補助を実施いたしました。

177ページをお開きください。

5目みどりの基金費では、水道事業会計からの繰入金30万円とふるさと納税分303万円、合計333万円を積み立てし、基金の平成28年度末の現在高は3,116万8,729円でございます。

179ページをお開きください。

4項3目漁港建設改良費では、水産物供給基盤機能保全事業により、下田地区漁港機能保全計画に基づき、吉佐美漁港多々戸第1船揚げ場の機能保全整備工事を2,162万2,000円で実施し、1,230万円を平成29年度に繰越明許しました。

181ページをお開きください。

6款商工費でございますが、支出済額は2億5,945万4,800円、執行率は98.6%、前年度に比べ3,355万7,747円、11.5%の減となっております。主な要因ですが、プレミアムつき商品券発行事業補助金、プレミアムつき旅行券発行事業補助金の減によるものでございます。

183ページをお開きください。

1項2目商工振興費のうち商工業振興事業では、住宅リフォーム振興助成金制度を実施し、合計32件、791万2,000円を助成いたしました。この事業の請負業者は市内27業者となりました。商店街活性化事業として、下田・南伊豆がんばる事業、きんめがど〜ん事業、下田ブランド策定事業の各事業に補助を実施し、下田の食に関する情報発信とブランド力の向上に努めてまいりました。

187ページをお開きください。

2項2目観光振興費のうち世界一の海づくり事業では、下田市自然体験活動推進協議会において、ワークショップ、海に親しむ講座、伊豆下田ブルーオーシャンムービーコンテストを実施しました。

191ページをお開きください。

4目外ヶ岡交流館管理運営費では、施設の老朽化対策として、修繕計画に基づき、屋上防水修繕234万4,000円、ハーバーミュージアムベランダ防水修繕119万3,400円、エレベーター修繕95万400円を実施しております。

5目世界一の海づくり基金費では、ふるさと納税775件、1,581万5,000円と一般寄附1件、10万1,350円の合計1,591万6,350円を積み立て、28年度末現在高は1,591万6,350円でございます。

7款土木費でございますが、支出済額は10億3,024万3,224円、執行率は98.3%、前年度と比べまして455万5,216円、0.4%の減となっております。主な要因ですが、敷根公園改修事

業、下水道会計繰出金、耐震改修支援事業の減によるものでございます。

193ページをお願いします。

2項1目道路維持費では、市道伊勢町脇ノ田線側溝修繕工事ほか39件の道路維持補修工事を5,232万7,080円で施工しました。平成26年度に実施した道路施設長寿命化推進のための道路ストック点検業務の結果に基づき、市道敷根1号線舗装改修工事を1,718万6,040円で実施しております。平成28年2月の落石事故を受け、平成27年度に請負締結した大山隧道改修工事1,724万7,600円のうち、平成28年度繰越分として1,024万7,600円を執行しました。また、津波避難路及び遊歩道の整備に合わせ、春日山ノ一通線避難路整備工事を323万4,600円で実施しました。業務委託につきましては、トンネルや橋の定期点検義務化に伴い、田牛第三、第四、道隈トンネル定期点検業務を718万4,160円で実施、橋梁定期点検業務につきましては、51橋の点検を1,911万8,160円で実施しております。また、地域からの要望により、市道吉佐美田牛線ほか54件を509万9,999円で修繕し、市道梶浦線ほか19件について原材料支給を79万9,996円で実施しております。

195ページをお開きください。

2目交通安全施設整備費では、道路交通の安全性を確保するため、防護柵、道路反射鏡の整備等、市道北湯ヶ野3号線ほか8件、499万9,320円を施工しております。また、地域要望により、道路反射鏡、防護柵の修繕を市道上大沢線ほか4件について49万9,154円で実施しました。

4目橋梁維持費では、橋梁長寿命化修繕計画に基づき、寝姿橋耐震補強工事を3,574万4,760円で施工しました。また、ゆのもと橋耐震補強工事実施設計業務を耐震補強のため896万4,000円で実施したほか、宮渡戸橋かけかえのため、平成27年度に契約締結した市道箕作権原線測量設計業務の平成28年度繰越分1,055万7,640円を実施しました。

3項1目河川維持費では、維持補修工事として、準用河川古根川護岸修繕工事ほか5件を749万9,520円で施工しました。また、地域の修繕要望に応え、護岸等の修繕を普通河川平峯川護岸修繕ほか2件について29万9,160円で実施しました。

197ページをお開きください。

5項1目都市計画総務費のうち都市計画マスタープラン推進事業では、地域別構想プロジェクト推進業務を318万3,840円で委託し、地域別まちづくり実践会議を3地区で合計10回開催しております。立野お吉ヶ淵線等修景設計業務委託では、189万円で市道立野お吉ヶ淵線、県道蓮台寺立野線の修景設計を行いました。稲生沢地区地域資源活用調査業務委託では、95

万400円で、地域資源である温泉宿泊施設を活用した、にぎわいあふれる地域の形成を目指し、温泉めぐり企画等の検討を行いました。稲生沢地区四季の花植栽業務委託は、114万6,000円で枝垂れ桃80本を植栽しました。稲生沢地区環境整備工事では、200万円で水路を改修し、100万円でガードパイプを設置しました。

201ページをお開きください。

2目伊豆縦貫道建設促進費では、本線開通に向けて都市計画道路の見直し作業を行う必要があり、都市計画道路の変更に伴う附図作成業務148万1,760円、旧町内まちづくり整備構想案検討業務99万3,600円で実施し、また建設発生土有効利用に伴う環境調査業務を469万8,000円で実施しました。

4目都市公園費では、敷根公園について、公益財団法人下田市振興公社に6,340万3,000円で管理委託しました。また、平成27年度に請負契約を締結しました敷根公園改修工事1,139万6,160円のうち、平成28年度は繰越分として684万円を執行しました。

203ページをお開きください。

6目景観まちづくり基金費は、ふるさと納税分429件、950万2,310円と一般寄附3,000円の合計950万5,310円を積み立て、10万4,000円を取り崩し景観まちづくり助成金に充てたため、基金の平成28年度末現在高は1,977万7,115円でございます。

205ページをお開きください。

7項2目耐震改修促進費では、個人の木造住宅の耐震化を推進するため、専門家診断15件を69万4,800円で実施しました。また、木造住宅補強計画の策定に2件、24万円、木造住宅耐震補強に1件、50万円、ブロック塀の撤去に2件、29万912円、平成27年度からの繰越明許として特定建築物の耐震計画の策定に1件、600万円の補助を実施しました。

207ページをお開きください。

8款消防費でございますが、支出済額は6億674万5,932円、執行率は99.6%、前年度に比べ8,902万5,526円、17.2%の増となっております。主な要因は、白浜地区防災センター建設工事、第5分団第1部詰所建設工事の増によるものでございます。

209ページをお開きください。

3目消防施設費では、消防施設等整備事業にて第3分団第2部（須原）に消防団小型ポンプ積載車939万6,000円を1台購入しました。白浜地区防災センター建設事業では、第7分団第1部（原田）、第7分団第2部（長田）、第7分団第3部（板戸）を統合した新たな詰所を併設する白浜地区防災センターを7,736万9,040円で建設しました。第5分団第1部詰所建

設事業では、第5分団第1部（柿崎）と第5分団第2部（外浦）を統合し、建設予定地に建つ旧淡交荘の解体工事を1,523万1,240円で実施し、その跡地に新たな第5分団第1部詰所を4,775万7,600円で建設しました。

9款教育費でございますが、支出済額は8億8,402万7,161円で、執行率は95.7%、前年度に比べ7億1,819万7,918円、44.8%の減となっております。主な要因は、給食センター建設事業の終了によるものでございます。

215ページをお開きください。

1項5目教育振興基金費は、ふるさと納税により寄附を受けた332件、684万円と一般からの寄附1件、10万円、合計694万円を積み立てし、取り崩しは、A L T謝礼241万4,000円、小学校の教材備品購入費50万円、中学校の教材備品購入費30万円、合計321万4,000円で、基金の平成28年度末現在高は1,922万4,032円でございます。

217ページをお開きください。

6目奨学振興基金費は、ふるさと納税により寄附を受けた167件、363万5,000円と一般からの寄附1件、1,000万円、合計1,363万5,000円を積み立てし、取り崩しは、就学奨励金として4中学校11人に110万円、中学生のニューポート市への派遣事業補助金97万2,468円、教育資金利子補給事業補助金9名分、15万6,320円、その他平成28年度より開始した体験プログラム事業補助金165万円、英語力向上プロジェクト補助金144万円、合計531万8,788円で、基金の平成28年度末現在高は5,896万810円でございます。

7目学校施設整備基金費は、学校施設を適正に維持するため平成28年度に基金を設置したもので、積立額は1億5,000万円でございます。

2項1目小学校管理費では、学校施設環境改善交付金の採択を受け、防災機能強化事業として、照明LED化を図り、浜崎小学校屋内運動場天井改修工事560万5,200円、稲梓小学校屋内運動場天井改修工事599万4,000円を実施しました。また、平成27年度より繰り越しの下田小学校屋内運動場天井改修工事1,578万2,040円、朝日小学校屋内運動場改修工事574万1,280円を実施しております。新設改良工事として、老朽化した和式トイレを洋式トイレに改修するための工事を稲梓小学校、下田小学校、朝日小学校で実施しました。工事費は398万8,440円でございます。その他工事として、下田小学校運動場避難路整備工事69万1,200円、浜崎小学校防護柵設置工事54万円を実施しました。

221ページをお開きください。

3項1目中学校管理費では、学校施設環境改善交付金の採択を受け、防災機能強化事業と

して、照明LED化を図り、稲梓中学校屋内運動場天井改修工事1,242万円を実施しました。また、平成27年度より繰り越しの稲生沢中学校屋内運動場天井改修工事1,215万円を実施しました。新設改良工事として、静岡県市町村振興協会の助成を受け、稲生沢中学校屋内運動場トイレ洋式化工事140万4,000円を実施しました。また、老朽化した和式トイレを洋式トイレに改修するための工事として、下田中学校トイレ改修工事92万9,880円を実施しました。

235ページをお開きください。

5項5目公民館費ですが、公民館管理運営につきましては、6公民館の利用者が3万4,853人、前年度と比較しまして581人増加しております。

243ページをお開きください。

6項3目下田市民スポーツセンター管理運営費では、高齢者生きがいプラザが廃止され、下田市民スポーツセンターにて陶芸窯の設置管理を行うこととなり、陶芸窯置場整備工事を267万5,160円で実施するとともに、高齢者生きがいプラザで使用した陶芸窯を1基移設し、また新たに陶芸窯169万9,920円を1基購入しました。

245ページをお開きください。

8項1目市民文化会館費では、大ホール舞台設備コンセント交換修繕、事務局エアコン修繕、大会議室空調設備修繕等を合計1,349万6,760円で実施しました。

247ページをお開きください。

10款災害復旧費でございますが、支出済額は524万8,800円、執行率は99.1%、前年度に比べ331万4,180円、38.7%の減となっております。主な要因は、単独道路橋梁施設災害復旧費の減によるものでございます。

249ページをお開きください。

11款公債費でございますが、支出済額は7億2,317万6,667円で、執行率は100%で、前年度に比べ4,317万4,631円、5.6%の減となっております。主な要因は、元利償還金の減によるものでございます。

251ページをお開きください。

12款予備費につきましては、備考欄記載のとおり、105件、3,929万3,000円の予備費充用を行っております。

255ページをお開きください。

実質収支に関する調書でございますが、歳入歳出差引額6億7,884万9,171円から翌年度へ繰り越すべき財源として、繰越明許費繰越額150万円を差し引きました実質収支額は6億

7,734万9,171円となりました。

256ページをお願いします。

財産に関する調書でございます。

(1)の土地及び建物について説明させていただきます。

土地の主な増減は、加増野にあります山林、雑種地等の法定外公共物を用途廃止し、普通財産へ移管したことによる増加と、白浜字砥川山にあります原野を災害防除工事のため売却したものでございます。建物の主な増減は、消防団第5分団第1部柿崎外浦詰所、白浜地区防災センター、スポーツセンター陶芸小屋の新設、それから稲生沢共同調理場、浜崎共同調理場、高齢者生きがいプラザ、旧淡交荘の解体と消防団第2分団第3部大沢詰所を用途廃止し、地元区へ譲渡したものでございます。

258ページをお願いします。

(2)の山林ですが、立木の推定蓄積量の増でございます。

(3)の物権から(6)の有価証券までと、260ページ、2、物品から264ページ、3、債権までは記載のとおりでございますので、説明を省略させていただきます。

265ページ、266ページをお開きください。

4、基金でございますが、基金の決算年度末現在高は22億7,329万6,353円でございます。各基金の決算年度中増減高及び決算年度末現在高は記載のとおりでございます。

以上で、認第1号 平成28年度下田市一般会計歳入歳出決算認定についての説明を終わらせていただきます。

○議長（竹内清二君） 説明の途中ですが、ここで10分間休憩いたします。

午前11時 1分休憩

午前11時11分再開

○議長（竹内清二君） 休憩を閉じ会議を再開いたします。

休憩前に引き続き説明を続けます。

会計管理者。

○会計管理者兼出納室長（河井長美君） 認第2号 平成28年度下田市稲梓財産区特別会計歳入歳出決算認定についてご説明申し上げます。

268ページから271ページをお開きください。

決算の状況は、歳入決算額202万6,832円、歳出決算額44万8,037円、歳入歳出差引額は157

万8,795円、予算現額に対する執行率は、歳入104.9%、歳出が23.2%でございます。

次に、歳入歳出決算事項別明細書により補足説明をさせていただきます。

272ページをお開きください。

歳入につきましては、1款1項1目財産貸付収入は、調定額、収入済額とも56万6,748円で、山葵田用地等の貸付料でございます。

2項1目不動産売払収入は、立木売払分収金10万円でございます。

274ページをお願いします。

歳出につきましては、財産区管理経費でございます。

279ページ、280ページをお開きください。

財産に関する調書でございますが、(2)の山林では、立木の推定蓄積量が前年度より1,616立方メートル増加しております。

財政調整基金は、決算年度中の増減はございませんので、決算年度末現在高は1,736万2,241円でございます。

以上で、認第2号 平成28年度下田市稲梓財産区特別会計歳入歳出決算認定についての説明を終わらせていただきます。

続きまして、認第3号 平成28年度下田市下田駅前広場整備事業特別会計歳入歳出決算認定についてご説明申し上げます。

281ページから284ページをお開きください。

決算の状況は、歳入決算額789万2,157円、歳出決算額567万5,424円、歳入歳出差引額は221万6,733円、予算現額に対する執行率は、歳入100.2%、歳出が72.0%でございます。

続きまして、歳入歳出決算事項別明細書により補足説明させていただきます。

285ページをお開きください。

歳入の1款1項1目広場使用料につきましては、調定額、収入済額とも650万8,528円で、バス会社2社、タクシー会社3社及び地中管路等の駅前広場占用料でございます。

287ページをお願いします。

歳出の1款1項1目総務管理費では、下田駅前広場看板修繕ほか3件、73万4,617円の修繕を実施いたしました。

その他、3款1項1目下田駅前広場整備事業基金積立金では、下田駅前広場整備事業の資金に充てるため、50万円を積み立ていたしました。

290ページをお開きください。

財産に関する調書の内容でございますが、下田駅前広場整備事業基金は、50万円積み立てし、決算年度末現在高は3,150万円でございます。

以上で、認第3号 平成28年度下田市下田駅前広場整備事業特別会計歳入歳出決算認定についての説明を終わらせていただきます。

続きまして、認第4号 平成28年度下田市公共用地取得特別会計歳入歳出決算認定についてご説明申し上げます。

292ページから295ページをお開きください。

決算の状況は、歳入決算額316万8,335円、歳出決算額316万8,335円、歳入歳出差引額はゼロ円で、予算現額に対する執行率は歳入、歳出とも99.8%でございます。

続きまして、歳入歳出決算事項別明細書により補足説明をさせていただきます。

296ページをお開きください。

歳入の1款1項1目財産貸付収入は、下田駅前旧バスターミナル用地、下田公園隣接地におきます市有地貸付収入316万8,335円でございます。

298ページをお願いします。

歳出の2款1項1目土地開発基金繰出金は、市有地貸付収入316万8,335円を土地開発基金へ繰り出したものでございます。

301ページをお開きください。

財産に関する調書でございますが、土地開発基金は、316万8,335円積み立てしたことにより、決算年度末の土地開発基金の現在高は現金2億6,338万5,568円で、公共用地取得特別会計貸付金につきましては、決算年度中の増減はなく、現在高は1億9,400万円でございます。

以上で、認第4号 平成28年度下田市公共用地取得特別会計歳入歳出決算認定についての説明を終わらせていただきます。

続きまして、認第5号 平成28年度下田市国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算認定についてご説明申し上げます。

303ページから308ページをお開きください。

決算の状況は、歳入決算額41億9,484万2,368円、歳出決算額38億1,469万7,427円、歳入歳出差引額は3億8,014万4,941円で、予算現額に対する執行は、歳入105.1%、歳出は95.5%でございます。本年度末の収入未済額は、国民健康保険税3億1,114万7,275円となり、前年度に比べ7,052万8,681円、18.5%の減でございます。

続きまして、歳入歳出決算事項別明細書により補足説明をさせていただきます。

309ページをお開きください。

歳入の主なものを申し上げますと、1款国民健康保険税は、予算現額6億9,660万円に対しまして、調定額10億9,939万7,365円、収入済額7億4,898万2,928円、不納欠損額3,926万7,162円、収入未済額3億1,114万7,275円でございます。調定額を前年度と比較しますと7,633万8,049円、6.5%の減でございます。収入率は68.1%で、前年度と比較しますと4.3ポイント改善しております。

311ページをお開きください。

3款国庫支出金は、予算現額7億251万5,000円に対しまして、調定額、収入済額とも8億2,692万4,983円でございます。調定額を前年度と比較しますと3,604万6,762円、4.6%の増でございます。

313ページをお開きください。

4款療養給付費交付金は、予算現額7,345万6,000円に対しまして、調定額、収入済額とも7,862万5,000円で、調定額を前年度と比較しますと3,481万6,000円、30.7%の減でございます。

5款前期高齢者交付金は、予算現額が8億1,744万9,000円に対しまして、調定額、収入済額とも8億1,744万8,697円、調定額を前年度と比較しますと7,737万8,657円、8.6%の減でございます。

6款県支出金は、予算現額1億7,623万1,000円に対しまして、調定額、収入済額とも1億8,913万5,908円でございます。調定額を前年度と比較しますと3,181万4,871円、14.4%の減でございます。

7款共同事業交付金は、予算現額8億3,593万円に対しまして、調定額、収入済額とも8億3,593万1,010円でございます。調定額を前年度と比較しますと4,027万3,559円、5.1%の増でございます。

315ページをお開きください。

9款繰入金は、予算現額3億7,211万1,000円に対しまして、調定額、収入済額とも3億7,210万5,869円でございます。調定額を前年度と比較しますと7,499万161円、25.2%の増でございます。

次に、歳出について説明申し上げます。

321ページをお開きください。

1款総務費の支出済額は5,089万4,857円で、前年度と比較しますと181万7,068円、3.7%

の増でございます。

325ページをお開きください。

2款保険給付費の支出済額は22億1,620万734円で、前年度と比較しますと5,815万1,838円、2.6%の減でございます。

なお、平成28年度の被保険者数は4,726世帯、7,537人で、前年度と比較しますと、世帯数は217世帯の減、被保険者数は436人の減となりました。

336ページをお開きください。

財産に関する調書でございますが、国民健康保険診療報酬支払準備基金は6,000万2,313円積み立てし、9,000万円取り崩したことにより、決算年度末現在高は2億1,184万1,420円でございます。

以上で、認第5号 平成28年度下田市国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算認定についての説明を終わらせていただきます。

次に、認第6号 平成28年度下田市介護保険特別会計歳入歳出決算認定についてご説明申し上げます。

337ページから340ページをお願いいたします。

決算の状況は、歳入決算額25億4,712万1,194円、歳出決算額24億1,943万5,121円、歳入歳出差引額は1億2,768万6,073円で、予算現額に対する執行率は、歳入96.3%、歳出は91.5%でございます。本年度末の収入未済額は、介護保険料1,781万9,700円で、介護保険料だけで比較しますと、前年度に比べ129万3,200円、6.8%の減でございます。

続きまして、歳入歳出決算事項別明細書により補足説明をさせていただきます。

341ページをお開きください。

歳入の主なものを申し上げますと、1款保険料は、予算現額5億856万1,000円に対しまして、調定額5億3,180万5,700円、収入済額5億572万2,100円、不納欠損額826万3,900円、収入未済額は1,781万9,700円でございます。調定額を前年度と比較しますと461万1,900円、0.9%の増でございます。収入率は95.1%で、前年度と比較しますと0.6ポイント改善しております。

3款国庫支出金は、予算現額5億9,845万2,000円に対しまして、調定額、収入済額とも5億7,290万7,281円でございます。調定額を前年度と比較しますと2,958万9,683円、5.4%の増でございます。

4款支払基金交付金は、予算現額6億8,894万8,000円に対しまして、調定額、収入済額と

も 6 億3,775万853円で、調定額を前年度と比較しますと1,627万8,045円、2.6%の増でございます。

343ページをお願いします。

5 款県支出金は、予算現額 3 億7,884万8,000円に対しまして、調定額、収入済額とも 3 億6,112万8,253円で、調定額を前年度と比較しますと2,869万2,422円、8.6%の増でございます。

8 款繰入金は、予算現額 4 億1,255万4,000円に対しまして、調定額、収入額とも 4 億1,221万円で、調定額を前年度と比較しますと817万5,000円、2.0%の増でございます。

次は、歳出でございます。

349ページをお開きください。

1 款総務費の支出済額は6,333万4,202円で、前年度と比較しますと1,042万4,805円、14.1%の減でございます。

351ページをお願いします。

3 項 1 目介護認定審査会費は、支出済額463万3,957円で、介護認定審査会を48回開催、1,151件の審査を行っております。

353ページをお願いします。

2 款保険給付費は、支出済額22億1,273万1,035円で、前年度と比較しますと674万439円、0.3%の減となっており、給付につきましては、居宅介護サービスを初め各種介護サービスを行い、3万9,336件の利用がありました。

370ページをお開きください。

財産に関する調書でございますが、介護保険介護給付費準備基金は4,463万8,381円積み立てし、1,987万2,000円取り崩したことにより、決算年度末現在高は1億2,132万5,452円でございます。

以上で、認第6号 平成28年度下田市介護保険特別会計歳入歳出決算認定についての説明を終わらせていただきます。

次に、認第7号 平成28年度下田市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定についてご説明申し上げます。

371ページから374ページをお開きください。

決算の状況は、歳入決算額 3 億2,696万7,902円、歳出決算額 3 億2,321万104円、歳入歳出差引額は375万7,798円で、予算現額に対する執行率は、歳入100.2%、歳出は99.1%でござ

います。本年度末の収入未済額は、後期高齢者医療保険料507万4,100円で、後期高齢者医療保険料だけで比較しますと、前年度に比べ49万9,200円、9.0%の減でございます。

続きまして、歳入歳出決算事項別明細書により補足説明をさせていただきます。

375ページをお開きください。

歳入でございますが、1款後期高齢者医療保険料は、予算現額2億3,756万5,000円に対しまして、調定額2億4,462万4,900円で、収入済額2億3,813万4,700円、不納欠損額141万6,100円、収入未済額は507万4,100円でございます。調定額を前年度と比較しますと1,448万2,600円、6.3%の増でございます。

3款繰入金は、予算現額8,336万7,000円、調定額、収入額とも8,336万6,093円でございます。調定額を前年度と比較しますと223万166円、2.6%の減でございます。

次は、歳出でございます。

379ページをお開きください。

1款総務費の支出済額は1,341万5,802円で、前年度と比較しますと317万2,847円、19.1%の減でございます。

2款1項1目後期高齢者医療広域連合納付金の支出済額は3億529万3,539円でございます。

なお、後期高齢者医療制度被保険者の平成28年度末被保険者数は4,549人で、前年度と比べ81人の増となりました。

384ページをお開きください。

財産に関する調書でございますが、決算年度中の増減はございませんでした。

以上で、認第7号 平成28年度下田市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定についての説明を終わらせていただきます。

次に、認第8号 平成28年度下田市集落排水事業特別会計歳入歳出決算認定についてご説明申し上げます。

385ページから388ページをお願いいたします。

決算の状況は、歳入決算額2,716万7,051円、歳出決算額2,362万6,507円、歳入歳出差引額は354万544円で、予算現額に対する執行率は、歳入99.7%、歳出は86.7%でございます。

続きまして、歳入歳出決算事項別明細書により補足説明させていただきます。

389ページをお開きください。

歳入の主なものを申し上げますと、1款使用料及び手数料は、予算現額292万8,000円に対しまして、調定額、収入済額とも285万5,860円で、調定額を前年度と比較しますと1万

5,349円、0.5%の減でございます。

2 款県支出金は、予算現額、調定額、収入済額とも700万円で、漁業集落環境整備費県補助金でございます。

4 款繰入金は、予算額、調定額、収入済額とも1,300万円で、前年度と同額でございます。

393ページをお開きください。

歳出でございます。

2 款事業費でございます。漁業集落環境整備事業では、機能保全計画に基づき、田牛地区排水処理施設機能保全整備工事1,000万円を実施しました。

なお、平成28年度末の受益者戸数は93戸で、前年度と比べ増減はございませんでした。

398ページをお開きください。

財産に関する調書でございますが、決算年度中の増減はございませんでした。

以上で、認第8号 平成28年度下田市集落排水事業特別会計歳入歳出決算認定についての説明を終わらせていただきます。

次に、認第9号 平成28年度下田市下水道事業特別会計歳入歳出決算認定について説明申し上げます。

400ページから403ページをお願いいたします。

決算の状況は、歳入決算額12億232万6,366円、歳出決算額11億5,436万2,898円、歳入歳出差引額は4,796万3,468円で、予算現額に対する執行率は、歳入97.7%、歳出93.8%でございます。本年度末の収入未済額は3,511万6,685円で、前年度と比べ2,693万3,418円、329.1%の増となっております。

続きまして、歳入歳出決算事項別明細書により補足説明させていただきます。

404ページをお開きください。

歳入でございます。

1 款分担金及び負担金は、予算現額100万円に対しまして、調定額461万3,070円、収入済額185万2,190円、不納欠損額57万800円、収入未済額219万80円でございます。調定額を前年度と比較しますと151万8,620円、24.8%の減でございます。

なお、不納欠損処理件数は40件となっております。

2 款使用料及び手数料は、予算現額1億4,600万2,000円に対しまして、調定額1億4,980万3,919円、収入済額1億4,547万6,790円、不納欠損額40万524円、収入未済額392万6,605円でございます。調定額を前年度と比較しますと220万1,961円、1.4%の減でございます。収

入率ですが、97.1%で、前年度より0.2ポイント改善しました。

3款国庫支出金は、予算現額、調定額ともに1億1,930万円で、収入済額は1億480万円でございます。調定額を前年度と比較しますと2,000万円、20.1%の増でございます。

5款繰入金は、予算現額、調定額、収入済額とも5億2,000万円で、調定額を前年度と比較しますと1,000万円、1.9%の減でございます。

6款繰越金は、予算現額4,325万9,000円に対しまして、調定額、収入済額とも4,325万9,671円でございます。

406ページをお開きください。

8款市債は、予算現額、調定額とも4億140万円で、収入済額は3億8,690万円で、調定額を前年度と比較しますと1,000万円、2.4%の減となっております。

なお、平成28年度末の市債の現在高は60億6,229万6,478円で、前年度より2億6,009万6,509円、4.1%の減となっております。

次に、歳出でございます。

410ページをお開きください。

1款2項2目処理場ポンプ場費のうち下水道施設管理事業では、下水道施設の維持管理のため、下水道施設包括的維持管理業務委託9,492万1,200円及び下水道施設維持管理契約履行監視業務委託354万9,000円を実施しました。

412ページをお願いいたします。

2款事業費のうち1項1目公共事業費では、幹線管渠築造工事1,699万7,040円で100.5メートルの工事を実施し、2目単独事業費では、枝線管渠築造工事610万920円で68.5メートルの工事を実施しました。また、第2弘洋園自治会より管渠1,252.72メートルの寄附を受け、採納しております。この結果、平成28年度末における整備済み面積は282.94ヘクタールとなり、計画面積314.2ヘクタールに対し、90.1%の整備率となりました。

なお、供用及び処理開始面積も282.94ヘクタールとなりました。

平成28年度中の下水道接続戸数は135戸、接続人口は214人であり、合計は3,148戸、7,466人となり、水洗化人口率は69.8%から70.3%となり、0.5ポイント上昇しております。

414ページをお願いします。

3目更新事業費のうち下水道施設等更新事業では、処理場の老朽化対策として、下田浄化センター電気計装設備更新工事1億1,080万円と工事に伴う監理業務委託504万円を実施しました。

419ページをお開きください。

財産に関する調書でございます。

1の(2)下水道施設管渠1,421.72メートルが増加しております。

以上で、認第9号 平成28年度下田市下水道事業特別会計歳入歳出決算認定についての説明を終わらせていただきます。

認第1号 平成28年度下田市一般会計歳入歳出決算認定についてから認第9号 平成28年度下田市下水道事業特別会計歳入歳出決算認定についてまでの9件についての説明を終わらせていただきます。

ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（竹内清二君） 上下水道課長。

○上下水道課長（鈴木光男君） それでは、認第10号 平成28年度下田市水道事業会計歳入歳出決算認定についてご説明申し上げます。

議案件名簿の10ページをお開きください。

本決算につきましては、地方公営企業法第30条第4項の規定に基づき、同会計決算を別紙監査委員の意見をつけて議会の認定に付すものでございます。

水色の下田市水道事業会計決算書をご用意いたします。

決算書の1ページをお開きください。

平成28年度下田市水道事業報告書でございます。

1、概況、(1)総括事項でございます。

下田市水道事業における本年度の年間有収水量は344万6,656立方メートルと、前年度に比べ5万7,749立方メートルの減、率にして1.6%の減少でありました。

総配水量は443万2,574立方メートルで、有収率77.8%となり、前年度より1.8%の増となりました。また、年度中の配水管破損件数は36件と、前年度に比べ4件増加いたしました。本年度も漏水調査を行い、漏水防止に努めるとともに、石綿管布設がえ工事の実施に努めました。

水道水源保護条例に基づく合併処理浄化槽設置事業に対する補助については、4件、29万6,000円の補助金を交付しました。

アの収益的収支の状況でございます。

事業収益は6億4,960万9,151円で、前年度対比98.6%、900万3,954円の減、事業費用は5億7,124万7,316円で、前年度対比96.8%、1,906万143円の減となりました。この結果、経常

利益が7,836万1,835円、当年度純利益も同額の7,836万1,835円となりました。

収益の主な内容は、営業収益における給水収益 6 億222万7,257円で、前年度対比98.6%、893万9,908円の減となりましたが、供給単価は 1 立方メートル当たり174円73銭と、前年度に比べ50銭の増となりました。

また、受託工事収益は757万8,336円と、前年度対比90.1%、83万1,883円の減、その他営業収益においては773万3,456円と、前年度対比88.9%、96万4,885円の減となりました。

営業外収益のうち他会計繰入金は535万3,000円で、主なものは、消火栓維持管理負担金187万3,000円、課長兼務負担金300万円であります。

一方、費用については、前年度対比で人件費101.1%、支払利息89.5%、減価償却費99.7%、動力費86.4%、薬品費87.4%、路面復旧費100.3%となり、給水原価は 1 立方メートル当たり154円48銭と、前年度に比べ 2 円90銭の減となりました。

この結果、有収水量 1 立方メートル当たりの利益は20円25銭となりました。

2 ページをお開きください。

イの資本的収支の状況でございます。

資本的収入 2 億105万9,540円、資本的支出 4 億8,365万4,809円の事業執行となりました。収入の主な内訳としては、企業債 1 億7,530万円、他会計からの出資金が100万円、水道負担金176万1,540円、県費補助金2,299万8,000円であります。

次に、支出の主な内訳としての改良工事費は、総額 1 億8,173万3,092円で、各地区送配水管改良工事、落合浄水場ろ過池改良工事、受電設備（柱上開閉器）改良工事が主たる工事であり、配水管改良工事において石綿管371.0メートルの取りかえを行いました。

また、第 6 次拡張事業は、総額5,957万6,040円で、上大沢地区配水管拡張工事、須原地区配水管拡張工事（その 1）、（その 2）及び上大沢地区増圧ポンプ設置工事を行いました。

なお、資本的収入額が資本的支出額に不足する額 2 億8,259万5,269円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額1,694万6,277円、当年度損益勘定留保資金 2 億689万1,423円、減債積立金5,875万7,569円で補填しました。

また、本年度における消費税及び地方消費税は2,039万7,700円の納付額となりました。

3 ページをご覧ください。

ウの各年度給水原価算出表とエの各年度供給単価算出表は、平成19年度から平成28年度までの一覧表でございます。

4 ページをお開きください。

4 ページは、平成28年度の議会議決事項と行政官庁許認可事項の一覧表でございます。

5 ページをご覧ください。

5 ページは、職員に関する事項でございます。平成28年度は、条例定数14名に対し、前年度と同様、職員11名と臨時職員 3 名により業務を行っております。

6 ページをお開きください。

6 ページは、資産取得表でございます。改良工事費の概況につきましては7 ページに、8 ページに第 6 次拡張事業費、そして、その下段には固定資産購入の概況を列記してございますので、ご確認をお願いします。

9 ページをご覧ください。

こちらは保存工事の概況でございますが、こちらもご確認をお願いします。

10 ページをお開きください。

3、業務、（1）業務量、ア、平成28年度の業務量を列記してございます。これは、先ほど水道事業報告書の総括事項で概要を報告させていただきましたので、ご確認をお願いします。

11 ページをご覧ください。

上段は月別有収水量でございます。下段のほうは事業収入に関する事項で、アの事業収益といたしまして、営業収益、営業外収益各項目の金額、構成比と前年度比較を行っております。

12 ページをお開きください。

上の表は給水収益で、普通給水と特別給水の区分となっております。下の表は、事業費に関する事項のうち事業費用でございます。営業費用と営業外費用各項目の金額、構成比、前年度比較を行っております。

次に、13 ページ、費用構成の表です。項目の構成比や有収水量 1 立方メートル当たりの単価と前年度比較を行っております。

14 ページをお開きください。

4、会計、（1）企業債及び一時借入金の概況でございます。

企業債の平成27年度末残高は30億3,038万2,325円で、平成28年度中の借入高が 1 億7,530 万円、償還高は 2 億4,145万1,183円で、平成28年度末の企業債残高は29億6,423万1,142円となるものでございます。

イの一時借入金につきましては、平成28年度中の借り入れはございませんでした。

次に、（2）その他会計経理に関する重要事項でございます。

まず、アの棚卸資産ですが、本年度末残高は1,899万2,660円で、棚卸資産購入額は1,049万6,875円でございます。

イの他会計借入金はございません。

ウの消費税につきましては、冒頭、総括事項で報告させていただきましたが、内容を記載しております。

15ページをお開きください。

これより決算書となります。縦の資料を横にお願いします。

平成28年度下田市水道事業決算報告書でございます。予算に対する執行状況をあらわしています。冒頭、事業報告書と重複もありますが、説明させていただきます。

なお、(1) 収益的収入及び支出におきましても、こちらは税込み額を表示しています。

収入でございますが、1 款水道事業収益は、予算額 7 億71万2,000円に對しまして、決算額 6 億9,909万100円で、執行率は99.8%でございます。

その内訳といたしまして、決算額で 1 項営業収益 6 億6,693万6,049円、2 項営業外収益 3,215万4,051円、3 項特別利益はございません。

次に、支出で、1 款水道事業費用は、予算額 6 億6,691万円に對しまして、決算額は 6 億300万4,442円で、執行率は90.4%でございます。

その内訳としまして、決算額で 1 項営業費用は 5 億572万8,181円、2 項営業外費用は 9,727万6,261円、3 項特別損失はありませんでした。4 項予備費は、消費税及び地方消費税等の営業外費用に627万2,000円を充用しています。

16ページをお開きください。

(2) の資本的収入及び支出の収入でございますが、1 款資本的収入は、予算額 2 億2,645万5,000円に對しまして、決算額 2 億105万9,540円で、執行率は88.8%でございます。

その内訳といたしまして、決算額で 1 項企業債は 1 億7,530万円、2 項他会計からの出資金100万円、3 項水道負担金は176万1,540円、4 項県費補助金は2,299万8,000円でございます。

次に、支出で、1 款資本的支出は、予算額 5 億4,145万3,000円に對しまして、決算額 4 億8,365万4,809円で、執行率は89.3%でございます。

その内訳といたしまして、決算額で 1 項建設改良費は 2 億4,220万3,626円、2 項企業債償還金は 2 億4,145万1,183円でございます。

17ページをご覧ください。

平成28年度下田市水道事業損益計算書で、ここに記載されている金額は消費税抜きの額で
ございます。

1、営業収益は6億1,753万9,049円、2の営業費用は4億9,443万2,016円で、営業利益は
1億2,310万7,033円となるものでございます。

次に、3の営業外収益は3,207万102円、4の営業外費用が7,681万5,300円で、経常利益が
7,836万1,835円となり、5の特別利益、6の特別損失はございませんので、当年度純利益は
7,836万1,835円となるものでございます。

前年度繰越利益剰余金はなく、その他未処分利益剰余金変動額が5,875万7,569円でしたの
で、当年度未処分利益剰余金は1億3,711万9,404円となるものでございます。

次に、18ページ、19ページをお開きください。

平成28年度下田市水道事業剰余金計算書でございます。こちらも消費税抜きの金額となっ
ております。

まず、資本剰余金でございますが、当年度は変動がございませんので、その結果、平成28
年度末残高は144万4,400円となるものでございます。

次に、利益剰余金でございます。

まず、減債積立金は、前年度処分後残高2億5,994万6,141円から当年度減債積立金の取り
崩し5,875万7,569円を差し引いた2億118万8,572円が当年度末残高でございます。

建設改良積立金は、当年度積み立て等はなく、残高3,000万円でございます。

当年度未処分利益剰余金は、前年度処分後の残高はゼロ円で、減債積立金取り崩し額
5,875万7,569円に当年度の純利益7,836万1,835円を加えた1億3,711万9,404円が当年度末残
高となります。

次に、18ページ下段の平成28年度下田市水道事業剰余金処分計算書でございます。地方公
営企業法第32条第2項及び第3項の規定により、本年6月定例会市議会にて処分の議決をいた
だき、未処分利益剰余金について資本金への組み入れと減債積立金への積み立てを行ったも
のでございます。

次に、20ページをお開きください。

平成28年度下田市水道事業貸借対照表でございます。

資産の部で、資産合計は末尾に記載してあります64億5,344万7,985円で、前年度決算に比
べまして598万1,347円の増となっております。

21ページをご覧ください。

負債の部で、負債合計は35億2,106万4,811円でございます。

22ページをお開きください。

次に、資本の部で、資本合計29億3,238万3,174円となり、負債資本合計は64億5,344万7,985円で、前の資産合計の額と一致し、貸借対照表は符合しているものでございます。

23ページをご覧ください。

平成28年度下田市水道事業キャッシュ・フロー計算書でございます。

キャッシュ・フロー計算書は、業務活動、投資活動、財務活動の3つの区分に分け、それぞれの活動により資金がどのように増減したかを示すものでございます。

業務活動によるキャッシュ・フローが2億8,315万6,953円、投資活動によるキャッシュ・フローがマイナス2億49万7,809円、財務活動によるキャッシュ・フローがマイナス6,515万1,183円となり、資金増加額が1,750万7,961円となるものでございます。平成28年度資金期首残高2億3,915万7,014円に資金増加額を加えますと、資金期末残高が2億5,666万4,975円となるものでございます。

次に、24ページの注記ですが、こちらは地方公営企業法施行規則第35条（注記の区分）に基づき記載されてございます。

それから、その後、25ページから36ページにつきましては、附属書類でございますので、後ほどご覧いただきたいと思っております。

以上、大変雑駁な説明でございますが、認第10号 平成28年度下田市水道事業会計歳入歳出決算認定についての説明を終わらせていただきます。

よろしくご審議のほどお願い申し上げます。

○議長（竹内清二君） 当局の説明は終わりました。

ここで午後1時10分まで休憩いたします。

午後 0時 3分休憩

午後 1時10分再開

○議長（竹内清二君） 休憩を閉じ会議を再開いたします。

認第1号より認第10号までの当局の説明は終わりました。

これより各議案ごとに質疑を行います。

まず、認第1号 平成28年度下田市一般会計歳入歳出決算認定についてに対する質疑を許します。

7番 大川敏雄君。

○7番（大川敏雄君） 4点ほど質問させていただきたいと思います。

まず、予算書の40ページ、それから、この主要な施策の成果の215ページを見ながら質問を、まず第1点目します。

この中で急傾斜地崩壊対策事業費の受益者の寄附金でございますけれども、今回、収入未済額が343万8,649円出ております。で、この主要な施策の成果のほうを見ますと、平成28年度は吉佐美、河内、それから広岡と3カ所しているわけであります。本来、寄附金というのは、事業を執行するに当たって事業の概要が確定したら、先に寄附金をもらって事業執行するというのが建前であったらと思うんですが、これは何ゆえにこの収入未済額が発生したのかということと、この3つの事業のうちどれが収入未済額になっているのかを説明ください。

それから、第2点目には予算書の44ページ、主要な施策の成果の156ページを見てください。ちょっと見てますから、156ページ、この中で雑入の保護費返還金ということで収入額が406万7,739円あります。未済額が1,488万7,200円あると、こういうことですが、主要な施策の成果のほうのこの156ページを見てください。生活保護費のこの見方は、特に私が注視をしているのは過年度発生分、法第63条適用分については、調定額が747万に対してわずか2万4,000円しか入っていないと、こういう数字です。そして、78条の適用分については、673万8,850円に対して16万1,000円と、至って、もうほとんど入っていないのが実情です。

これについての事情を説明していただくと同時に、ちょっと法律的にどういうあれか調査しなかったんですけれども、この過年度の発生、いつ頃から一番古いやつは出ているかと。そして、水道料にしても何にしても最近、金はもうほとんど取れないということになればもう不納欠損と、こういう処理をしているわけです。多分、私、ずっと見ていて、この種の整理がされてないんじゃないかと、実質上恐らくこの過年度分は、調定額としてはトータルで1,400万あるけれども、実際18万ですよ。中身を見ると、もうほとんど徴収できないんじゃないかということが推定されます。したがって、今、質問した事項について、これいつまでもこういう形でやらなければならないのかと、整理するものはするということが大事ではなからうかと思っておりますので、質問いたします。

それから、予算書の172ページ、これは農地、長谷川課長のほう、私が注視したのは、28年度の予備費充当が一番大きいのは800万です。この内容を見てみますと、災害復旧だとか何とかというのはわかるんです、予備費充当でさっさと。ところが、これを見ると、恐らくこ

のうちの修繕料に該当しているんじゃないかと思うんです、予備費を充当して。議会の途中ですぐやりたいんだけど、予算措置のそのことができなかったというようなことの事情からこういう予備費充当が出ているんですけれども、予備費充当の手続としては大変金額が多いと、突出して。この辺のご事情を長谷川課長、ひとつきめ細かくご説明いただきたいと。

次に、206ページ、主要な施策の成果のほうでは220ページ見てください。主要な施策の成果は220ページ。

28年度は、要は空き家等対策推進事業としてこの空き家の実態把握のために896万4,000円使っているわけです。そして一方、29年度の、本年度の予算を見ますと、要は18万5,000円ばかりの予算で、調査したものを今後どうするかというのは、恐らく29年度のこの予算づけだと思います。せっかく調査をして、それぞれ目的があるわけで、また法律もあるわけで、この辺についての、900万もかけて、やっぱり一つの政策が出ないとおかしいと思います。その点について当局はどのように考えているのかお尋ねいたします。

以上です。

○議長（竹内清二君） 建設課長。

○建設課長（白井達哉君） それでは、私のほうからは急傾斜の寄附金の関係と、今の空き家の関係についてご説明させていただきます。

まず、急傾斜の収入未済額につきましては、これは、場所は多々戸、軒数は1軒の方です。通常、急傾斜事業のこの寄附金あるいは分担金の事務の流れとしまして、どうしても工事の内容変更等がある関係で、年度ごとの正確な精算額がどうしても年度末近くにならないと県のほうでも出ない関係で、市が県に払う分担金が確定するのが年度末近くになってしまうということもあって、寄附金、分担金、地元の方をお願いする時期もその時期になってしまうということがまず一つあるんですけれども、今回こちらの方のケースに関しましては、どこもそうなんですけれども、最初に、事業化の段階では全体の何%いただくことになりましてという説明しかできない。

と申しますのは、設計に係る費用に対しましてもその比率がかかってくる関係で、設計をやるためにはお金をいいたくみたいところがあって、額で幾らというお話ができない中で事業が進んでいく関係もありまして、思った以上の金額だったということがあったり、あと、こちらの方に関しましては、事業も何年も継続してやっている事業の中で、当初お父様と話をしていた中で、代がわりされてお子さんの代になったときに、今そうなっているんですけれども、その辺でなかなかご理解いただくのに苦慮しているところもあるんですけれど

も、こちらとしましては、できる限りの丁寧な説明をさせていただいて、ご納得していただ
いてお金を支払うよう努力をしていくつもりです。

空き家のほうですけれども、昨年度、実態調査にこれだけの費用をかけてということで、
その調査結果をもとにして、今、計画のほうは職員が直営でつくっている最中でございます。
またお示しできる段階になりましたらそうさせていただきたいと思えます。

すみません。私のほうからは以上です。

○議長（竹内清二君） 福祉事務所長。

○福祉事務所長（土屋悦子君） 私のほうからは、保護費返還金の関係につきましてご答弁さ
せていただきます。

まず、生活保護法第63条でございますけれども、こちらにつきましては、年金請求による
遡及分年金の支給などで、本人にとががなく、何らかの要因で保護費を多く受給した場合、
それを返してくださいというものです。

第78条につきましては、アルバイトなどの就労収入を申告せずに不正受給した場合の返還
債務、故意に収入を隠蔽し、収入申告せず所得を隠した場合、つまり悪い心でやった場合、
そちらについて返しなさいよというものでございます。

それで、主要な施策の成果156ページにありますとおり、収入済額、ご指摘のとおりでご
ざいます。我々としたしましても、書面なり口頭なりで指導を非常に行って、分割払いとか
させているんですけれども、これがなかなか返すような方々じゃないものですから、そこが
とても努力しているところですが、なかなか回収が難しいということになっております。

それで、申しわけない。25年に法改正がございまして、26年7月からこれの境にしている
だったと思うんですけれども、それ以前のものにつきましては、今回のこの分かれたやり方
になっておりまして、それで、今おっしゃいました、延々といつからというのが、ちょっと
今手元に資料がなくて申しわけございませんけれども、ずっと延々と続いているものでござ
います。それで、それについて前々から、これどうにかしたほうがいいんじゃないかという
ご意見があったと思えます。

で、債権管理条例というのを今、市庁挙げまして模索しているところなんですけれども、
この保護費につきましては、ちょっと一筋縄では行きませんで、結局ほとんどが国庫補助な
んですよ。そうしますと、さかのぼって国庫返還金が生じるというようなこともございまし
て、その手続の仕方なんかもいろいろ難しいということで、ざっと概算で計算しましても
1,600万ぐらいは返還金が生じるというふうに見込んでおります。ですので、今回の条例の

中でも一気にちょっと保護費の返還金だけは解決できずに、ちょっとやり方を模索して見送るというような形で検討しております。

以上でございます。

○議長（竹内清二君） 産業振興課長。

○産業振興課長（長谷川忠幸君） ページで言いますと172ページの、これ800万の予備費充当をさせていただいた件でございます。

これはファブリダムの修繕を行っています。ファブリダムにつきましては、いろいろ激甚災害特別措置法のときですか、県の保証で頭首工のかわり、頭首工を集めて、当時やって、集めてあそこに建設していただいたと、それからずっと使って、農業用水として使っているわけなんですけれども、老朽化が激しく、漏れているところはちょこちょこ直しておったんですけれども、それでちょっと危ないなということで新年度の予算要求も考えたんですけれども、それが実施できなかった。で、3月、4月に入ってですか、ちょっと漏れが激しくなって、で、当時、仮設でいろんなほかの川から、用水だけでなく、実はお吉ヶ渚の公園にも使っていたり、あそこは長年、河内区的环境整備の水としても使っているところであって、農地もありますし、水を通さないわけにはいかないということで、仮設等いろいろ考えたんですけれども、それができなかったということで修繕しなければならないと。

で、6月の補正までちょっと待てない状態で、実を言うとファブリ、ゴムの下にパイプが通ってまして、そのパイプが多分、老朽化で砕けていると、じゃ何をしようかと言ったら、そこをとめてここだけで勝負して、だめのところはうっちゃろうということで業者とも話をして、その工事の施工がゴムの中に入ってやらなきゃならない施工で、1週間雨が降らないで、水位が上がらないようなときを狙ったということで、5月中にやらなきゃならないということで、議会に提出できなくて申しわけなかったんですけれども、そこで対応させていただいております。

以上です。

○議長（竹内清二君） 大川敏雄君。

○7番（大川敏雄君） 建設課長のほうですが、急傾斜のほうは、場所はわかりましたけれども、どうも答弁の中では、まだいわゆるこの金額は入金されていないと、こういう説明であつたろうと思います。したがって、いろいろとご苦労されていると思いますが、その入金の見通しについてどのような状況になっているかお答えをいただきたいと。

それから、もう一点、あなたのほうの担当の空き家のほうですが、職員が鋭意頑張っ

後の対応を考えているんだということでありますが、確認ですが、何年も検討していてもこれは意味合いがないんで、やはり1,000万近く、当時、当初予算では倍額ぐらい、2,000万ぐらいの予算を上げて、いろんな事情の中で900万ぐらいで実際やったんだけど、本年度中に具体的な方針が出るのかという点について質問をいたします。

それから、福祉の所長さん、いろいろとこれは難しいあれだけでも、条例制定の研究をしているんだということでも理解しますけれども、ぜひ、私も昨年、決算委員をさせていただいて、そのときも質問を委員会でしたんですけども、なかなか大変だなということはわかるんですが、実態は、いわゆる調定額に対してほんのわずかだというのは、やはりほかの自治体がどういう形で対応しているかも含めて、やっぱり異例な状態を正常な状態にする努力をひとつ引き続いてすべきではなかろうかと思いますが、もう一度ご返答をいただければありがたいと思います。

それから、長谷川課長には、5月に、確かにファブリダムは昭和51年債でつくって、耐用年数が大体50年と、こう言われていて、現状恐らく何かあると2億円ぐらいかかる、やりかえれば、大変そういうような難題を抱えているわけですが、今後、私の知る範囲では、800万の予備費充当でちょこっとやるというのは、修繕で、そういう場合にはひとつ、今度若い委員長がいますから一言、やっぱり協議会でも何だって、おい、こういうことを一つやりたいから頼むよという一つの、それは正式ではないんですけども、その辺の議会に対するあなたの配慮が必要だと思いますが、いかがですか。

○議長（竹内清二君） 建設課長。

○建設課長（白井達哉君） すみません。私のほうからですけども、私のほうも実は、本来でしたら今日この場では、決算書ではこうなっていますけれども、いただいていますという返答をしたかったのですが、そのために担当者ともども努力もしていたんですけども、今現状、確かに入金いただいてない状況ですので、このままでいいとは考えておりませんので、年内をめどには形をつけたいと、今のところはそういう気持ちで取り組んでおります。

すみません。空き家のほうですけども、申しわけないです。今ちょっとうろ覚えでスケジュール感がちょっとはっきりしたことを記憶しておりませんで、また間違ったことを言ってしまうと申しわけありませんので、後ほど説明させていただきます。すみません。

以上です。

○議長（竹内清二君） 福祉事務所長。

○福祉事務所長（土屋悦子君） ご指摘いただきましたことにつきましては、法改正によって

現年度については回収できているんですが、過年度については手がつけられないような状況でおりますので、そこは鋭意努力いたしまして、国庫返還金の関係も検討しながら、いろいろと相談していきたいと思っております。

○議長（竹内清二君） 産業振興課長。

○産業振興課長（長谷川忠幸君） この件につきましては、ちょっと配慮が足りなかったということで私も反省しております。議会の皆様におきましては、いつも協力していただいていると私は思っておりますので、今後も密に連絡をとりまして、こういうことがあったときにはお話をさせていただきたいということで、今後そういたします。

○議長（竹内清二君） 大川敏雄君。

○7番（大川敏雄君） 建設課長に改めてお願いしておきます。

今の急傾斜並びに空き家対策に係る件については、決算委員の皆さん方には十分資料をもって克明に経過を説明してやって、納得いただけるようなひとつ手配をしていただきたいと思います。よろしくどうぞお願いします。

○議長（竹内清二君） ほかに質疑はございませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（竹内清二君） これをもって、認第1号に対する質疑を終わります。

次に、認第2号 平成28年度下田市稲梓財産区特別会計歳入歳出決算認定に対する質疑を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（竹内清二君） 質疑はないものと認めます。

これをもって、認第2号に対する質疑を終わります。

次に、認第3号 平成28年度下田市下田駅前広場整備事業特別会計歳入歳出決算認定についてに対する質疑を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（竹内清二君） 質疑はないものと認めます。

これをもって、認第3号に対する質疑を終わります。

次に、認第4号 平成28年度下田市公共用地取得特別会計歳入歳出決算認定についてに対する質疑を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（竹内清二君） 質疑はないものと認めます。

これをもって、認第4号に対する質疑を終わります。

次に、認第5号 平成28年度下田市国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算認定についてに対する質疑を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（竹内清二君） 質疑はないものと認めます。

これをもって、認第5号に対する質疑を終わります。

次に、認第6号 平成28年度下田市介護保険特別会計歳入歳出決算認定についてに対する質疑を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（竹内清二君） 質疑はないものと認めます。

これをもって、認第6号に対する質疑を終わります。

次に、認第7号 平成28年度下田市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定についてに対する質疑を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（竹内清二君） 質疑はないものと認めます。

これをもって、認第7号に対する質疑を終わります。

次に、認第8号 平成28年度下田市集落排水事業特別会計歳入歳出決算認定についてに対する質疑を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（竹内清二君） 質疑はないものと認めます。

これをもって、認第8号に対する質疑を終わります。

次に、認第9号 平成28年度下田市下水道事業特別会計歳入歳出決算認定についてに対する質疑を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（竹内清二君） 質疑はないものと認めます。

これをもって、認第9号に対する質疑を終わります。

次に、認第10号 平成28年度下田市水道事業会計歳入歳出決算認定についてに対する質疑を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（竹内清二君） 質疑はないものと認めます。

これをもって、認第10号に対する質疑を終わります。

以上で、認第1号から認第10号までの10会計の決算認定に対する質疑は全部終了いたしました。

お諮りいたします。

ただいま議題となっております認第1号から認第10号までの平成27年度下田市各会計の歳入歳出決算10件につきましては、8人の委員をもって構成する決算審査特別委員会を設置し、ここに付託したいと思います。これにご異議はございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（竹内清二君） ご異議はないものと認めます。

よって、8人の委員をもって構成する決算審査特別委員会を設置し、これに付託することに決定いたしました。

◎決算審査特別委員会委員の選任

○議長（竹内清二君） ただいま設置することに決まりました決算審査特別委員会の委員の選任につきましては、委員会条例第8条第1項の規定に基づき、議長より指名いたします。

1番 進士為雄君、2番 進士濱美君、3番 橋本智洋君、4番 滝内久生君、6番 小泉孝敬君、9番 伊藤英雄君、10番 土屋 忍君、13番 沢登英信君、以上の8名を決算審査特別委員会の委員に指名し、選任いたします。

ここで、ただいま選任されました委員の方は、決算審査特別委員会の正・副委員長を互選していただくため委員会を開催していただきたいと思います。

委員の方は第1委員会室へお集まりください。

ここで暫時休憩いたします。

午後 1時36分休憩

午後 1時43分再開

○議長（竹内清二君） 休憩を閉じ会議を再開いたします。

ここでご報告申し上げます。

休憩中、決算審査特別委員会を開催し、正・副委員長の互選をいたしました結果、委員長に橋本智洋君、副委員長に滝内久生君が選出されましたので、ご報告いたします。

◎報第8号及び報第9号の上程・説明・質疑

○議長（竹内清二君） 次は、日程により、報第8号 平成28年度決算に基づく下田市健全化判断比率の報告について、報第9号 平成28年度決算に基づく下田市公営企業の資金不足比率の報告について、以上2件を一括議題といたします。

当局の報告を求めます。

総務課長。

○総務課長（井上 均君） それでは、報第8号 平成28年度決算に基づく下田市健全化判断比率の報告についてをご説明申し上げます。

恐れ入りますが、議案件名簿の11ページをお開きいただき、あわせて条例改正関係等説明資料の1ページから7ページをご用意ください。

本報告は、地方公共団体の財政の健全化に関する法律第3条第1項の規定により、平成28年度に公表する健全化判断比率を別紙、監査委員の意見をつけて次のとおり報告するものでございます。

各指標につきましては、議案表中に記載のとおり、実質赤字比率及び連結実質赤字比率は棒線表示、実質公債費比率は7.3%、将来負担比率は45.7%でございます。また、表中括弧書きに記載の数値は、地方公共団体の財政の健全化に関する法律施行令第7条で定められております、それぞれの自治体の標準財政規模に応じた基準であり、本市の早期健全化基準を示しております。早期健全化基準は、いわゆる黄色信号を示しているもので、本市の場合には、実質赤字比率が14.41%以上になりますと早期健全化の対象となるものでございます。

以下、他の指標も本市の比率がそれぞれ記載された基準を超えた場合、早期健全化の対象となり、財政健全化計画を策定することとなることとさせていただきます。

それでは、健全化比率の内容につきまして、条例改正関係等説明資料によりご説明申し上げます。

恐れ入ります。説明資料の1ページをお開きください。

健全化判断比率の概要でございますが、1、実質赤字比率は、一般会計及び特別会計のうち普通会計に相当する会計を対象とした実質赤字の標準財政規模に対する比率で、本市における普通会計に相当する会計は、一般会計、下田駅前広場整備事業特別会計及び公共用地取得特別会計の3会計でございます。この3会計の純計額におきまして繰入充用等の赤字額はございませんでした。

なお、資料4ページ、1、①表、（純計）、一般会計等に係る実質収支率の表をちょっと

ご覧いただきたいと思ひます。

右下側をご覧いただきますと、実質赤字比率は、字が小さくて申しわけございませぬ。マイナス11.16と表示されておりますが、実質赤字比率は、黒字の場合にマイナス表示されるということで、11.16%の黒字ということでございませぬ。

恐れ入ります。説明資料の1ページにお戻りいただき、2の連結実質赤字比率でございませぬが、連結実質赤字比率は、下田市の全会計を対象にした実質赤字の標準財政規模に対する比率で、この指標も実質赤字比率と同様、赤字はございませぬでした。

説明資料、恐れ入ります。5ページをお願いいたします。

総括表②、連結実質赤字比率等の状況（平成28年度決算）の表の、また字が小さくて申しわけございませぬ。右側の一番下のところをご覧いただきますと、連結実質赤字比率はマイナス26.03と表示されておりますが、実質赤字比率と同様、26.03%の黒字ということでご理解いただきたいと思ひます。

恐れ入ります。再度1ページのほうにお戻りいただき、3の実質公債費比率でございませぬが、実質公債費比率は、一般会計が負担する元利償還金及び純元利償還金の標準財政規模を基本とした額に対する比率で、説明資料の6ページをお願いいたします。総括表③、実質公債費比率の状況（平成28年度決算）の中段の一番右側にありますように、実質公債費比率は3カ年平均で地方債許可基準の18%を下回る7.3%となり、前年度の8.6%と比較して1.3ポイント改善しております。単年度におきましては7.02919となり、前年度の6.73710から0.29209ポイント上回っております。

恐れ入ります。説明資料の2ページをお願いいたします。

4、将来負担比率でございませぬが、将来負担比率は、一般会計が将来負担すべき実質的な負債の標準財政規模を基本とした額に対する比率で、説明資料7ページをお願いいたします。7ページ、総括表④、将来負担比率の状況（平成28年度決算）の下端の一番右側にありますように45.7%で、前年度の56.8%と比較して11.1ポイント改善しております。

以上、大変雑駁な説明ではございませぬが、報第8号 平成28年度決算に基づく下田市健全化判断比率の報告についての説明を終わらせていただきます。よろしくご審議のほどお願い申し上げます。

○議長（竹内清二君） 上下水道課長。

○上下水道課長（鈴木光男君） それでは、報第9号 平成28年度決算に基づく下田市公営企業の資金不足比率の報告についてご説明申し上げます。

議案件名簿の12ページをお開きください。

本報告は、地方公共団体の財政の健全化に関する法律第22条第1項の規定によりまして、平成29年度に公表する資金不足比率を別紙監査委員の意見をつけて、次のとおり報告するものでございます。

恐れ入りますが、条例改正関係等説明資料の8ページをお開きください。

資金不足比率ですが、これは公営企業における資金不足の状況をあらわしたもので、この比率が高くなるほど当該企業の事業規模に比して累積された資金不足が発生しており、公営企業として経営状況に問題があることとなります。経営健全化基準は20%とされており、これを超えた場合は、実質赤字を解消するために、議会の議決を経た上で経営健全化計画を定めなければなりません。資金不足比率は、資金の不足額を事業の規模で除して算出されます。アからエはそれぞれの額の算定式でございます。

次に、説明資料の9ページから11ページが資金不足比率に関する様式となっております。その中で11ページをお開きください。

一番左側(8)の欄、各公営企業の数値は、こちら剰余額をあらわして、不足額はなしとなっております。結果、資金不足比率算定式の分子がゼロとなり、資金不足比率はなしとなるものでございます。

議案件名簿の12ページをお願いします。

表でございますが、下田市水道事業会計、下田市下水道事業特別会計、下田市集落排水事業特別会計は、それぞれ資金不足比率なしとなるもので、棒線表示となっております。

以上、大変雑駁な説明ではございますが、報第9号 平成28年度決算に基づく下田市公営企業の資金不足比率の報告についての説明を終わらせていただきます。

○議長(竹内清二君) 当局の報告は終わりました。

これより各報告ごとに質疑を行います。

まず、報第8号 平成28年度決算に基づく下田市健全化判断比率の報告についてに対する質疑を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長(竹内清二君) 質疑はないものと認めます。

これをもって、報第8号 平成28年度決算に基づく下田市健全化判断比率の報告についてに対する質疑を終わります。

次に、報第9号 平成28年度決算に基づく下田市公営企業の資金不足比率の報告について

に対する質疑を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（竹内清二君） 質疑はないものと認めます。

これをもって、報第9号 平成28年度決算に基づく下田市公営企業の資金不足比率の報告についてに対する質疑を終わります。

◎報第10号の上程・説明・質疑・討論・採決

○議長（竹内清二君） 次は、日程により、報第10号 専決処分の承認を求めることについて（平成29年度下田市一般会計補正予算（第3号））を議題といたします。

当局の報告を求めます。

総務課長。

○総務課長（井上 均君） それでは、報第10号 専決処分の承認を求めることについて（平成29年度下田市一般会計補正予算（第3号））につきましてご説明を申し上げます。

議案件名簿の13ページをお開きください。

報第10号 専決処分の承認を求めることについてでございますが、地方自治法第179条第1項の規定により、専第5号 平成29年度下田市一般会計補正予算（第3号）を別紙のとおり平成29年7月3日に専決処分したことにつき、同条第3項の規定により議会の承認を求めるものでございます。

恐れ入りますが、別冊ピンク色の補正予算書及び補正予算の概要をご用意いただきたいと思っております。

それでは、補正予算書の1ページをお開きください。

補正予算の主な内容につきましては、静岡県海漁業調整委員会委員の1名欠員により、補欠選挙を平成29年8月9日執行することについて、選挙執行経費と財源となる県委託金を専決補正予算としたものでございます。

それでは、改めまして補正予算書の1ページをお開きください。

平成29年度下田市の一般会計補正予算（第3号）は、次に定めるところによるもので、第1条の歳入歳出予算の補正でございますが、第1項は、既定の歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ157万8,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ97億117万3,000円としたものでございます。

第2項は、歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入

歳出予算の金額は、第1表歳入歳出予算補正によるということで、予算書の2ページから5ページ記載のとおりではございますが、内容につきましては、補正予算の概要によりご説明申し上げます。

恐れ入りますが、補正予算の概要の2ページ、3ページをお開きいただきたいと思います。
まず、歳入でございます。

選挙管理委員会関係、14款3項1目3節選挙費委託金157万8,000円の増額は、静岡海区漁業調整委員会委員選挙委託金でございます。

続きまして、歳出でございます。

選挙管理委員会関係、2款4項4目0581静岡海区漁業調整委員会委員選挙事務157万8,000円の追加は、補正内容等欄に記載のとおり選挙執行経費で、開票管理者から会場使用料までが記載ございます。

なお、平成29年7月31日に立候補の届け出があり、候補者の数が定員1名を超えず1名のみとなりました。よって、投票のほうは行わないことになったことを申し添えます。

以上、大変雑駁な説明ではございますが、報第10号 専決処分の承認を求めることについて（平成29年度下田市一般会計補正予算（第3号））の説明を終わらせていただきます。よろしくご承認のほどお願い申し上げます。

○議長（竹内清二君） 当局の説明は終わりました。

本案に対する質疑を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（竹内清二君） 質疑はないものと認めます。

お諮りいたします。

本案は委員会に付託することを省略したいと思います。これにご異議はございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（竹内清二君） ご異議はないものと認めます。

よって、委員会付託を省略することに決定いたしました。

これより討論、採決を行います。

まず、反対意見の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（竹内清二君） 討論はないものと認めます。

採決いたします。

本案は原案のとおり承認することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（竹内清二君） ご異議はないものと認めます。

よって、報第10号 専決処分承認を求めることについて（平成29年度下田市一般会計補正予算（第3号））は、原案のとおり承認することに決定いたしました。

◎諮第1号の日程・説明・質疑・討論・採決

○議長（竹内清二君） 次は、日程により、諮第1号 人権擁護委員の候補者の推薦につき意見を求めることについてを議題といたします。

当局の報告を求めます。

副市長。

○副市長（土屋徳幸君） それでは、諮第1号 人権擁護委員の候補者の推薦につき意見を求めることについてをご説明を申し上げます。

お手数ではございますが、議案案件名簿の14ページをお開きください。

本案は、人権擁護委員の候補者の推薦につき議会の意見を求めるものであります。

人権擁護委員法第6条第1項の規定により、人権擁護委員は法務大臣が委嘱することとなっており、同条第3項で、市町村長は法務大臣に対し、当該市町村の議会の議員の選挙権を有する住民で、人格識見高く、広く社会の実情に通じ、人権擁護について理解のある者の中から、その市町村の議会の意見を聞いて人権擁護委員の候補者を推薦しなければならないと規定されております。

人権擁護委員の候補者の推薦に当たりましては、地域的な偏りが生じないように配慮し、市内を白浜・浜崎地区、下田地区、稲生沢地区、稲梓地区、朝日地区の5地区に区割りして候補者を選考しております。人権擁護委員の任期は3年で、本市からは現在5名の方が人権擁護委員に委嘱されており、そのうち稲梓地区からお願いしております土屋博久委員が本年12月31日をもって任期満了を迎えることにより、提案理由にありますとおり、人権擁護委員法第6条第3項の規定により議会の意見を求めるものであります。

土屋さんは平成27年1月1日に就任され、現在1期目であります。これまでの人権擁護委員としての活動を通じて培われてこられました知識や経験は高い評価を受けており、人権擁護委員として適任者でありますので、人権擁護委員の候補者として重ねて推薦させていただくものであります。

土屋さんは昭和27年2月23日のお生まれで、現在65歳であります。静岡県立下田北高等学校をご卒業後、昭和49年3月に山梨県都留市立都留文化大学をご卒業され、同年4月、神奈川県小田原市立新玉小学校に教諭として採用されました。その後、小田原市のほか箱根町、湯河原町、真鶴町など神奈川県内の小学校で教鞭をとられ、平成16年4月に真鶴町立岩小学校教頭にご着任、平成20年4月に小田原市立大窪小学校校長、平成21年4月から湯河原町立吉浜小学校校長など要職を歴任され、平成25年3月、神奈川県湯河原町教育委員会社会教育課教育指導員を最後に教職の現場を離れ、現在に至っております。

土屋さんは在職中も自宅から通勤されていたため、地域の実情にも明るく、また、地域からの信頼も大変厚い方でありまして、人権擁護委員法第6条第3項に規定する要件を満たし、人権擁護委員として適任者でありますので、人権擁護委員の候補者として推薦させていただき、議会のご意見を賜りたいというものであります。

以上でございます。

○議長（竹内清二君） 当局の説明は終わりました。

本案に対する質疑を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（竹内清二君） 質疑はないものと認めます。

お諮りいたします。

本案は委員会に付託することを省略したいと思います。これにご異議はございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（竹内清二君） ご異議はないものと認めます。

よって、委員会付託を省略することに決定いたしました。

これより討論、採決を行います。

まず、反対意見の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（竹内清二君） 討論はないものと認めます。

採決いたします。

本案は原案のとおり適任とすることにご異議はございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（竹内清二君） ご異議はないものと認めます。

よって、諮第1号 人権擁護委員の候補者の推薦につき意見を求めることについては、原

案のとおり適任とすることに決定いたしました。

◎議第44号の上程・説明・質疑・討論・採決

○議長（竹内清二君） 次は、日程により、議第44号 下田市固定資産評価審査委員会委員の選任についてを議題といたします。

当局の報告を求めます。

副市長。

○副市長（土屋徳幸君） それでは、議第44号 下田市固定資産評価審査委員会委員の選任についてご説明申し上げます。

お手数ですが、議案案件名簿の15ページをお開きください。

本案は、下田市固定資産評価審査委員会委員の選任に関する案件であり、その選任に当たり地方税法第423条第3項の規定により議会の同意を求めたいというもので、提案理由は委員の任期満了に伴うものであります。

この地方税法の規定は、固定資産評価審査委員会の委員は、当該市町村の住民、市町村税の納税義務がある者、または固定資産の評価について学識経験を有する者のうちから当該市町村の議会の同意を得て市町村長が選任するというものであります。

本市の固定資産評価審査委員会委員の選任につきましては、委員が地域的に偏在しないように配慮し、旧下田地区と朝日地区、稲梓地区と稲生沢地区、白浜地区と浜崎地区と区割りして、それぞれの地区から1名ずつ合計3名で固定資産評価審査委員会委員として審査事務をお願いしているところであります。任期は3年で、この3名の委員のうち白浜・浜崎地区から選任されております田中誠一委員が来る9月28日をもって任期満了となります。

田中委員は平成26年9月29日に就任され、現在1期目であります。田中委員は元静岡県の職員で、県庁勤務のほか各出先機関におきまして豊富な行政経験を積んでこられた方であり、固定資産評価審査委員会の委員として適任者でありますので、重ねて選任させていただき、ご同意をお願いしたいというものであります。

田中さんは昭和25年1月10日のお生まれで、現在67歳であります。昭和43年3月に静岡県立下田北高等学校をご卒業後、同年4月に静岡県職員に採用され、賀茂出張所税務課、下田財務事務所課税課、東部民生事務所総務課、県庁統計課、会計課などを経て、平成2年4月に下田財務事務所課税課関税第一係長、平成13年4月から下田財務事務所管理課専門官、平成19年4月から下田財務事務所次長兼管理課長の要職を歴任され、平成21年3月に静岡県を

退職されました。静岡県を退職後の平成21年11月から静岡県非常勤嘱託員として任用され、平成27年3月31日、同職を退職され現在に至っております。

以上、申し述べましたとおり、田中さんは、本市の固定資産評価審査委員会委員といたしまして適任者でありますので、ぜひともご同意を賜りますようご審議のほどよろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

○議長（竹内清二君） 当局の説明は終わりました。

本案に対する質疑を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（竹内清二君） 質疑はないものと認めます。

お諮りいたします。

本案は委員会に付託することを省略したいと思えます。これにご異議はございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（竹内清二君） ご異議はないものと認めます。

よって、委員会付託を省略することに決定いたしました。

これより討論、採決を行います。

まず、反対意見の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（竹内清二君） 討論はないものと認めます。

採決いたします。

本案は原案のとおり同意することにご異議はございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（竹内清二君） ご異議はないものと認めます。

よって、議第44号 下田市固定資産評価審査委員会委員の選任については、原案のとおり同意することと決定いたしました。

○議長（竹内清二君） 以上で、本日の日程は全部終了いたしました。

これをもって散会いたします。

なお、16日から18日は休会とし、19日、本会議を午前10時より開催いたしますので、ご参集のほどをよろしくお願い申し上げます。

なお、各派代表者会議を午後2時15分より第1委員会室で開催いたしますので、代表者の方はご参集願います。また、各派代表者会議終了後に第1委員会室において決算審査特別委員会協議会を開催いたしますので、よろしくお願いいたします。

お疲れさまでございました。

午後 2時 7分散会